

佐賀市中心商店街ネットワーク会議

皆様、今晚は。本日はお忙しいところ、また昼間のお仕事でお疲れのところをお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。佐賀市議会議員の福島です。本日の会議の進行をさせていただきますので、よろしくお願い致します。

まず、この会議を開催するに至った経緯についてご説明申し上げます。すでに事前にお配りした、趣意書に書かれている通りではございますが、改めてご説明いたします。

中心商店街の環境の悪化は、日に日にその厳しさを増しています。これといった有効な解決策が見いだせない中で、いろいろな方策への取り組みが行われています。

また、行政のスタンスも、以前は中心商店街活性化という形での取り組みが行われていましたが、今では、中心市街地活性化と方向が変換されています。それは、現在の行政の手法が、中心市街地と言う形でエリアを捕えることにより、商店街だけではなく政治、経済、歴史・文化的な側面を持つこの地域全体を佐賀市の核として位置づけたことからくるものです。しかし、そこにある商店街が中心市街地を形成する大きな要素であることには変わりはなく、商店街の活性化は決して看過できる課題ではありません。

ですが、中心市街地活性化の考え方は、直接的に商店街を援助する施策ではなく、中心市街地にいかにして人を呼び込むのか、街を歩く人の数をどうしたら増やすことができるのかといった方向に向いています。歩く人を増やした後、商店街やお店に人が来るかどうかは、それぞれの商店街やお店の努力にゆだねられているということです。

そういったなかで、お店を「点」として位置づけると、商店街は「線」ととらえると、点が単独で光っているお店は街の中に幾つか見出すことができますが、線としてはなかなか光りきれないのが現状ではないでしょうか。ましてや光り輝いていた商店街が崩壊するという現象も見られるまでに至っております。

ということで今回、ご提案申しあげるのは、今まで線でしかとらえていなかった商店街を、面として捉える事が出来ないかといったことに考えが至ったことに起因するものです。現在でも、それぞれの商店街が、それぞれに企画を起こしイベントや町おこし事業を実施していますが、商店街相互の連携というものはなかなか見ることができません。

もともとアーケードがつながっていた時には、銀天通りということで複数の商店街の協働が行われていた時もあります。それがまさに銀天夜市の賑わいではなかったかと思いますが、現在、私が見る限りにおいては、そういった関係を取っている商店街を見出すことはできません。

毛利元就の故事を引き合いに出すことは、この場合ふさわしくないかもしれませんが、すでに従来の形での中心商店街と言うとらえ方が出来なくなってきた今、新しい形での中心商店街を形成し、それらの商店街がどこかで一つに繋がっていくことが、これから先の商店街には求められているのではないかと考えるに至りました。

この考え方は、何も今回改めて出てきたものではなく、従前からこういった考え方をお持ちの方はおられましたし、私も賛同していました。それが、あるきっかけを得たことによって、行動につながったものです。

後ほどご挨拶を頂きますが、錦通り商店街で和楽器店を経営されている三根さんとお話しさせて頂く機会を得、そこで、ただ座しているよりは、なんらかの行動を起こしたいという方々と、「やる気のある商店街の連携を図ってはどうか」という話になって、今回のご提案となった次第です。

商店街がネットワークで連携を図ることによって、もしかしたら何らかのヒントや方策が見いだせるかもしれません。もしかしたら結果として何も生まれないかもしれません。正直なところ不安いっぱい状況での本日の開催ですが、何か行動を起こすこと無くして次へのステップはあり得ないと思います。そう言った足がかりとして、この会が機能してくれればと思っています。

趣意書の中でも申しておりますが、この会の目的としては、次の四つの目標を掲げております。

- * 商店街の連携を図り単独ではできない企画を発信し、街の活性化を模索する。
- * 商店街同士の顔合わせを来ない、相互理解を促進する。
- * 協力できる所、出来ない所、見習うべき点などを確認しあう。
- * 出来れば、共同開催の企画を立ち上げる。

もちろん、すでにご存じの通りに、市や商工会議所、TMOなどの方々もあらゆる形で活性化策を講じられています。そのことに関しては、この場からも深く感謝申し上げますし、今回のご提案は、そういった活性化策に対抗するものではなく、そういった方策に対しても有効に働くものだと思っています。

ただ、これまでのように、トップダウンで示される企画に頼っているだけではなく、自己責任を伴ったボトムアップ企画の発現があってこそその活性化ではないかと考えます。自分たちの街は自分たちの力で作り上げていくんだという、強い気持ちと行動力が、これからの商店街の活性化には欠かせない要素だと言えます。

私がこれまでに商店街対策に関する会議や、活性化した商店街の視察等を行ってきて感じることは、活性化した、あるいは活性化しようとしているところは、商店街組織という基盤がしっかり機能しており、街をつくろうと言う強い気持ちを持った方々が連携して事に当たっています。そう言ったところで聞くのは「補助金が要らないとは言わないが、補助金頼みで事業を起こしても成功しなかった」あるいは「行政頼みでの街づくりでは成功しない」と言われています。

前段でも言いましたが、佐賀市の施策もすでに主導的な立場から、方向転換してきています。自助努力をしないところへの補助金はあり得ないと言うところまで来ております。やはり自らが行動を起こす以外には活性化への道はないと思います。結果として付いてきた補助金については、くれるものはしっかり頂いてもいいかと思いますが、まずは自分たちで行動を起こしていくきっかけを、このネットワークの中で見出す事が出来れば思っています。